

研究・活動紹介

農業・農村体験における相互学習

吉村 親（静岡県立農林環境専門職大学 短期大学部）

I. はじめに

1. 国内の農業・農村の現状

農業生産額や農業所得の減少，農業の担い手の高齢化や後継者の不足，遊休農地の増加，農村地域の過疎化など，農業・農村を取り巻く環境が揺らいでいる。さらには，FPA，EPA，TPPなどの貿易協定がその揺らぎに拍車をかけている。

このような背景から，農村地域では，農業・農村が抱える様々な課題の克服に向けて，グリーン・ツーリズムや農村地域の活性化に向けた多様な取り組みが全国各地で展開されている。

2. 国民の食を取り巻く現状

不規則な食習慣や外食中心，朝食の欠食，若い女性の過度なダイエット，生活習慣病の増加（低年齢化，医療費の増大），食の安全の確保（BSE，鳥インフルエンザ），先進国中最低水準の食料自給率（カロリーベースで37%：2021年）など食を取り巻く環境が様々な問題を抱えている。

このような背景から，2005年には食育基本法が成立し，国民が食のあり方を学ぶ取り組みが全国各地で行われるようになった。近年では，食だけではなく，食を支える農業や農村に対しても消費者の意識の高まりもみられている。

3. 農業・農村と食が抱える課題の解決に向けて

1次産業の生産物が食の基本をなすものであり，農業の場合は，農産物の生産を支える農業・農村の課題が，食の課題に直結する。主には，①農産物を生み出す農村と，その②農産物を消費する都市に分けられる。実際には，農村においても農業地域と，市街地に分けられるが，農業地域の住民は消費者としての側面もある。

本来，①と②は密接な関係であるが，近年ではその関係性が見えにくいことから「食と農の乖離」ともいわれている。

このような背景から，国民が食の課題を自分事

として捉え，その食を支える農業や農村のあり方を学ぶためには，都市や市街地を中心に行われている栄養，食べ方，食文化などの食教育や農業体験だけではなく，そこからもう一歩進んで実際に農村に足を運び，農業・農村体験として農業，食，自然や農家とのふれ合いから，農業・農村や食の実態について学ぶことが大切である。

この過程で，消費者と農家が共に学ぶことで，農業・農村や食の現状をふり返り，意識の変化を促し，農業・農村と食が抱える課題の解決に向けて，具体的な行動に結び付けていくことが必要である。

II. 農業体験

農業体験の意義は，自然のなかで労働し収穫するよろこびが得られる，身体的・精神的な健康を維持・増進する，感性をみがき他者理解をうながす，人と人の交流をうながし人間関係を豊かにする，農業・農村についての理解をうながすもの（佐藤ら，2005）⁴⁾とされている。

農業体験の課題としては，農業農村体験学習指導者養成北海道講座（2007年2月23日～24日）において，小菅知三氏が，①子どもの生活に対する位置づけをどのように示すか，②本当に子どもの人格形成に役立つか，③子どもに対する農業体験の効果的な進め方をどのようにしていくかの3つをあげ，その課題解決のヒントとして，人間的な語り合いの重要性，自然と接している農家とのふれあい，農業の体験を幼児期等の早い段階から継続的に行うことの重要性について指摘している（吉村，2007）⁶⁾。

III. 農業・農村体験

1990年代後半から，食農教育や食育に関する取り組み，農山漁村での体験学習の推進など，政策的に農業に関する教育的取り組みが促進され始め，主に学校教育での総合的な学習の時間や修学旅行

での農業体験などで行われている。

しかし、そこでの農業体験について、農業や自然とゆっくりふれあうよりは、流れ作業的なものである。その内容は多くが田植えや稲刈りといった部分的な体験に留まり、作物の生育の一連の流れを学ぶことができない（片岡，2006）³⁾ という指摘もある。近年では、継続的な取り組み（例えば、田植え+生育状況の観察+除草+稲刈り）もみられるようになったが、その数は多いとはいえない。

このような課題を抱えつつも、学校教育では生徒全員が共通の内容を学ぶことができるという利点があるため、今後は学校教育の枠組みのなかで教育効果を高めるプログラムの検討が必要である。子どもの教育は家庭・学校・地域が協働して行われることから、地域住民や親と子どもが一緒になって食や農を学ぶ場をつくることが学校や地域には求められている。

この取り組みは、農業の現場がある農村に継続的に足を運びながら行われることが望ましい。なぜなら、農村で農業生産の一連の流れを体験しながら学ぶ過程で農業・農村の現状を理解し、その土地で収穫された農産物をその土地で消費する（食べる）ことによって、農と食のつながりを学ぶことができるからである。

このように、農村での継続的な農業・農村体験によって自らの食生活を振り返るだけではなく、その食生活を支えている農業・農村のあり方までもも振り返ることが可能となる。そのような学びが得られる場の1つとして「農業小学校」があげられる。

IV. 農業小学校

1. 農業小学校とは

農業小学校は、小学校という名称をつけているが、学校教育の取組みではない。参加者が、農村地域に半年から1年間、1ヶ月に1～2回の頻度で通いながら「農作物の生産から消費する（食べる）までの一連の流れ」と「その地域ならではの活動」を体験することができる。

参加者は、小学生などの子どもが中心となるが、子どもの親など大人も対象としている取組みも多い。行政（市町村）やJAが運営主体の場合は、参加者を同一の市町村内や管内の在住者に制限を

している場合があるが、それ以外は地域を問わない。参加費は、ひと家族につき2,000円から30,000円程度と様々であるが、行政（市町村）やJAが運営主体の場合は安価に設定されている場合が多い。

この体験では、農作物（農業小学校によって種類が異なる）の生長過程を継続的に観察できるため、田植えや稲刈りなどの部分的な体験よりも、農作物の生産過程を学ぶことができる。収穫した農産物は、その場で調理を行い、参加者と指導者が一緒に食事をすることが多い。この一連の過程で、参加者同士だけではなく、参加者と指導者の交流が深まっていく。

農業小学校の特徴について、農業小学校の第1の特性は、自然体験的な教育効果を第1の目的として重視し、第2の特性を農業小学校の対象は、おおむね子供であって、大人は付随的なもの（玉井，2000）⁵⁾ としている。

また、農業小学校の活動内容は、一定の教育カリキュラムが整備されている段階になく、むしろ子供の農作業体験という1点において共通する活動（長谷川ら，2004）¹⁾ という指摘からも、子どもの体験活動には着目しているが、大人の参加者と指導者の学びについては触れられていない。

2. 農業小学校の成り立ちと全国への広がり

農業小学校の第1号である菅井農業小学校は、児童文学者の今西祐行氏が神奈川県藤野町（現在、相模原市）に移り住み、農作業体験を子どもたちに提供する活動として、学校制度の外で1987年に設立した（今西，1991）²⁾。その後、この活動への関心が日本各地で広まり、1990年代に全国的に広がりをみせた。

しかし、農業小学校は草の根的な活動が多く、運営主体や授業プログラムも多様であることに加え、全国的な組織がないことから活動の正確な数やその実態の把握は難しい。筆者は全国で31事例の農業小学校を確認している（第1表）が、この中には、現在、閉校していたり、活動の実態が確認できない取り組みも含まれている。

この中のおおやまだ農業小学校について、2020年から実態調査に着手している（第2表、第3表、写真1、写真2）。

第1表. 全国の農業小学校の一覧

| 名 称 | 都道府県 |
|-----------------|------|
| 芽室町農業小学校 | 北海道 |
| 由仁ふれあい農業小学校 | 北海道 |
| 砥山農業小学校 | 北海道 |
| ポラン農業小学校 | 岩手県 |
| 雫石農業小学校 | 岩手県 |
| ひっぼ農業小学校 | 宮城県 |
| 夢ひたち農業小学校 | 茨城県 |
| やさと農業小学校 | 茨城県 |
| 綿打農業小学校 | 群馬県 |
| 菅井農業小学校 | 神奈川県 |
| 平林農業小学校 | 山梨県 |
| 丸なす立広域夢丸農業小学校 | 長野県 |
| 安曇野まつかわ農業小学校 | 長野県 |
| すざか農業小学校 | 長野県 |
| 桜柿羊の農業小学校 | 長野県 |
| 椈の湖農業小学校 | 岐阜県 |
| おじゃった農業小学校 | 岐阜県 |
| 荒城農業小学校 | 岐阜県 |
| 森町農業小学校 | 静岡県 |
| おおやまだ農業小学校 | 三重県 |
| 草の根農業小学校 | 滋賀県 |
| しんあさひ農業小学校 | 滋賀県 |
| 西方寺平農業小学校 | 京都府 |
| やまさき農業小学校 | 兵庫県 |
| つやま農業小学校 | 兵庫県 |
| 私立なよし農業小学校 | 島根県 |
| 私立農業小学校とよひら青空教室 | 広島県 |
| 溪筋農業小学校 | 愛媛県 |
| おおにし農業小学校 | 福岡県 |
| 阿蘇尋常農業小学校 | 熊本県 |
| 竜堀農業小学校 | 熊本県 |

第2表. おおやまだ農業小学校の基本情報

| | |
|-----|--|
| 授業料 | 20,000円／1家族 食材費，種苗費，農具費等を含む。 けが事故等については原則自己負担。 |
| 定 員 | 毎年20組まで（募集は3月中旬まで） |
| 期 間 | 【開校】3月第4日曜～ 【閉校】12月第2日曜 登校日：期間中の毎月第2日曜と第4日曜 時 間：毎回10:00～15:00 |
| 事務局 | おおやまだ農業小学校を育てる会 一般社団法人大山田農林業公社内 (三重県伊賀市) |

第3表. おおやまだ農業小学校の年間スケジュール

| 月 | 内 容 |
|----|---------------|
| 3 | 開校式・ジャガイモ定植 |
| 4 | 畑の手入れ・看板づくり |
| 5 | 田植え・野菜の定植 |
| 6 | 畑の手入れ・クラフト体験 |
| 7 | 畑の手入れ・カヌー体験 |
| 8 | 畑の手入れ・サマーキャンプ |
| 9 | 稲刈り・脱穀 |
| 10 | 畑の手入れ・畑の運動会 |
| 11 | 野菜収穫・クラフト体験 |
| 12 | 閉校式・収穫祭 |



写真1. おおやまだ農業小学校の活動の様子



写真2. おおやまだ農業小学校の活動の記録

3. 農業小学校による学習過程と意識変容

農業小学校の先行研究では、学習評価の対象は子どもが中心であり、大人は付随的な存在であった。しかしながら、子どもの毎日の食生活は、身近に接する親の影響が大きいことに加え、農業・農村や食の課題に取り組む主体形成の学びの観点

から、大人の参加者の学習評価も必要である。

また、この分析には、参加者だけではなく指導者である農家の学習過程や意識変容の分析も必要であろう。

農業・農村体験学習の指導者である農家と参加者である消費者が表向きは「教える（農家）→教えられる（参加者）」の関係で学習が進められながらも、農家は消費者との交流によって気づきや学びが生まれることから、この両者の間では相互学習（農家⇔消費者）が行われている。また、この相互学習は一過性ではなく継続して行われることにより、その学習効果は高まる。

筆者は、この相互学習について、北海道の農業小学校を事例に取り上げて分析している（吉村、2008）⁷⁾。

このなかで消費者である参加者は、単に農作業を学ぶだけではなく、農業小学校に取り組む農家との交流を通じて、農家の農業に対する考えや安全で安心できる農産物への理解を深めていき、この農家に共感して毎年のように参加するリピーターが多いことを確認している。

このことに関連して、米の年間契約や、毎回の授業の後や授業以外の日に、収穫体験農園を利用する（農産物の購入を行う）ことにもつながっている。この農家の顔と畑が見える農産物の流通は、従来の農協や市場出荷とは異なるものである。

一方、指導者である農家は、就農当初は農薬や化学肥料を多投した米中心の大規模生産による農業経営をしていたが、消費者と交流していく過程でこの生産を批判的にふり返り、安全・安心な農産物の生産を行うため、米と野菜の有機栽培に切り替えた。

また、農業小学校では、参加者に農業を教える過程で自らも学びながら体験のプログラムを発展させてきた。

ここに農家が教え、参加者が学ぶという一方的

な関係ではなく、農家と参加者の相互学習の関係があるといえよう。この関係は、農家と参加者がお互いの生活を支え合う関係でもある。

以上のとおり、農業小学校による学習過程と意識変容は、参加者だけではなく、指導者においても農業生産や農業経営のあり方を批判的にふり返える行為として確認することができた。

V. おわりに

今回事例にした農業小学校は、運営主体や授業プログラムが多様であることに加え、すでに閉校しているなど、活動の実態を確認できない取り組みもあることから、今後は、各農業小学校の実態調査を行い、全国の農業小学校の一覧を更新し、消費者と農家の相互学習の分析を進めていくことが必要である。さらには農業小学校の取り組みが地域づくりへ展開していくプロセスの分析も必要であろう。

そこで得られた知見については、農業小学校だけではなく、各地で行われている農業体験や、農業・農村体験の活動支援にいかしていきたい。

引用文献

- 1) 長谷川昭彦, 重岡徹, 荒樋豊. 2004, 「農村ふるさと
の再生」日本経済評論社, 287
- 2) 今西祐之. 1991. 「農業小学校のうた」木魂社
- 3) 片岡美喜. 2006. 「『食・農・環境』諸側面の展開に関する一考察」『日本農業教育学会誌』第37号, 71
- 4) 佐藤誠, 篠原徹, 山崎光博. 2005. 「グリーンライフ入門」農山漁村文化協会, 94
- 5) 玉井康之. 2000. 「農業小学校の展開と時代的背景」『“農業小学校”の取り組みと今後の課題』農村生活総合センター, 9-17
- 6) 吉村親. 2007. 「農家が子どもに頼られる地域の先生を目指して研修」『おむすび通信』北海道開発建設部, 7
- 7) 吉村親. 2008. 「グリーン・ツーリズムと農産物市場」『ニューカントリー』北海道協同組合通信社, 78-79